



# 「爪」「ひげ」「肛門のう」 秘められた機能とは？



いずれも小さなパーツですが、そこには「猫らしさ」を象徴する大切な機能が…。お手入れ方法も含めてご紹介！

## つねに新品！猫の爪

### 狩りのための大切な武器

猫の指は前足に5本、後ろ足に4本あり、それぞれの爪は出し入れが自由自在。狩りのときに足音を消したり、摩擦を防ぐため、ふだんは指の中に収められています。必要に応じて、筋肉を収縮させて爪を出します。これは、走るスピードを優先して爪を出さなければならぬ。肉が未発達な子猫や、筋肉が衰えた高齢猫でも、爪が出たままのことがあります。



### 爪とぎはマーキングの役割も

爪は何層にもなっていて、内部に新しい爪が作られます。猫が自分で爪とぎをしたり、歯でかじったりすることで、古くなった爪が鞘状に脱落して、内側から鋭い新しい爪が現れます。

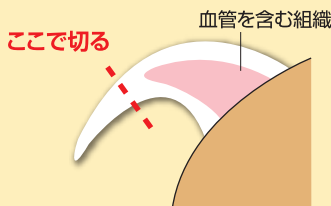
### 室内飼育なら爪切りの習慣を

本来、猫にとっては大切な鋭い爪。しかし、室内で人と一緒に暮らすうえで、様々な不都合も出てきます。爪とぎ器だけでなく、家具や柱で爪とぎをして、爪の新陳代謝と同時に、爪とぎにはマーキングとしての役割も。猫の肉球には皮脂腺があり、ここから出るフェロモンをつけることで、自分の存在を他の猫に知らせたり、生活環境を自分のにおいで満たして、気持ちを落ち着かせたりする意味合いもあるようです。

猫が嫌がって暴れる場合は、かかりつけの動物病院に相談してみよう。無理をして失敗すると、次から爪切りをさせてくれなくなったり、飼い主さんとの信頼関係を損なう原因にもなりかねません。

### 爪の切り方

- ①爪を切るときは、後ろからだっこして、爪切りを持つ手と反対の手で猫の手を持ちます。体全体をバスタオルでくるむと、おとなしくなる場合も。
- ②次に、指で肉球を押して、爪を出します。
- ③爪の根本のピンク色の部分には血管と神経が通っていて、切ると痛みを伴い出血するので、ピンクの部分から1~2ミリほどを残して切ります。



傷だらけにしたり、家族をひっかいて、猫ひっかき病やパストレルラ症などの感染症の原因になることも。また猫自身も、伸びすぎた爪が巻き爪になったり、カーペットなどに引っかかって爪がとれてしまうこともあるので、外に出ない猫なら、定期的な爪切りの習慣をつけておいた方が安心かもしれません。

## 高感度リーダー… 猫のひげ

### 周りの情報をキャッチ

猫のひげは、口の左右だけでなく、あごの下、頬目の上などにもある太くて硬い毛です。「触毛」と呼ばれ、体毛とは違って、根本に神経や血液が通った敏感な感覚器官です。

ひげは、近くの物体のかすかな動きや、温度、湿度、風向きなどを察知し、敵や獲物の存在をキャッチするのです。また、暗闇での障害物の把握や、通り抜けに必要な幅のチェックにも活躍します。

### 感情も表現

ひげの動きで感情もわかります。

### 攻撃的 前方に突き出す



### うれしい ピンと上向きに立っている



### リラックス ダランと垂れている



### おびえる 頬にびったりつく



猫の肛門の左右斜め下あたりに、肛門のうと呼ばれる袋があります。この中には、独特の強いにおいのする分泌物がたまっていますが、これは、スキャンクが敵を撃退するときにお尻においを発するのと同じもの。

猫が怖がり興奮したときなどに、この分泌物が排出されることがあります。もともと、自分のおいとして個体識別の役割を担っており、猫同士がお互いのお尻を嗅ぎ合うのも、このにおいを嗅いでいるといわれています。

猫の肛門の左右斜め下あたりに、肛門のうと呼ばれる袋があります。この中には、独特の強いにおいのする分泌物がたまっていますが、これは、スキャンクが敵を撃退するときにお尻においを発するのと同じもの。

猫が怖がり興奮したときなどに、この分泌物が排出されることがあります。もともと、自分のおいとして個体識別の役割を担っており、猫同士がお互いのお尻を嗅ぎ合うのも、このにおいを嗅いでいるといわれています。

猫が怖がり興奮したときなどに、この分泌物が排出されることがあります。もともと、自分のおいとして個体識別の役割を担っており、猫同士がお互いのお尻を嗅ぎ合うのも、このにおいを嗅いでいるといわれています。

猫が怖がり興奮したときなどに、この分泌物が排出されることがあります。もともと、自分のおいとして個体識別の役割を担っており、猫同士がお互いのお尻を嗅ぎ合うのも、このにおいを嗅いでいるといわれています。

猫が怖がり興奮したときなどに、この分泌物が排出されることがあります。もともと、自分のおいとして個体識別の役割を担っており、猫同士がお互いのお尻を嗅ぎ合うのも、このにおいを嗅いでいるといわれています。

### 肛門のう絞り方

分泌物は、通常は排便時などに少しずつ排出されますが、肛門のうの導管や開口部が詰まると、たまりすぎて炎症を起したり、破裂することもあります。分泌物がたまりやすい猫は、定期的に絞り出す必要があります。しきりにお尻を舐めたり、肛門のうの位置を触ってみて、ふくらみを感じることがあればサインです。

肛門のうのある場所は、肛門を挟んで左右の位置。ぶくっつくられていると、こむらねと人差し指をあて、奥から手前に引き上げるイメージで下から上に押し出します。分泌物は非常に臭く、付着するにおいが落ちにくいので、ティッシュやガーゼをあてて行うことをおすすめします。肛門のうが硬くなっていたりしてうまくいかない場合は、無理せず動物病院にお願いしましょう。

### 肛門のうの絞り方

